

る関心の高さが窺われます。

会 長 木村さんの本にリンゴの木にお願いして歩くと書いてありました、やはり応えてくれるものですか。

木村氏 信じる信じないは自由ですが、植物は人の心がわかると思います。例えば、胡瓜の巻ひげは、五、六歳の子供が手をかざすと、皆絡まります。しかし、大人が同じことをしても絡む人と絡まない人がいる。不思議ですね。これはまさしく素直かどうか、信じるか信じないかではないでしょうか。ある有名な高僧が手をかざしても絡まないなんてこともありました(笑)。植物は本当に正直なものです。不思議と胡瓜農家の主人では絡まないのに奥さんでは絡むという話もあります。

それはおそらく、選別の際に曲がった胡瓜を主人が捨てている現場を胡瓜達が見ているからだと思います。

会 長 御著書に、私も以前は効率人間だった、とあります。どのようなことが木村さんの考え方を変えたのでしょうか。

木村氏 私が効率を求めたのは、大きなトラクターの方が畑を早く耕すことができ、しかも良い作物が出来る、と勘違いしていたことです。これも不思議なこ

とですが、トラクターが大きければ土に重み加わり、土にダメージを与えるのです。土にだってバクテリアがいます、生き物です。それが重いと云っているじゃないか。小さい機械を利用すべきでないか。効率ばかりを追い求め、土を労わらなければいい植物は育たない、と気付いたのです。それから作業効率ばかりを追求するのをやめました。土を労わると、本当にいい作物が出来るのですよ。

また、肥料を十キロ使った場合、全てを植物が使うか調べたところ、ほとんどがガス化するところ、ある林業の本に書いてありました。そのガスについて、フロンガス規制を提唱した「アメリカ大気圏研究所」が、フロンガス規制の結果、オゾン層は修復していると考えていたが、最近大きな穴が見つかったので、更なる規制が必要であり、その原因は肥料、農薬、除草剤のガス化による可能性がある、と驚きの発表をしています。

会 長 それは驚きですね。農薬等を使用しない農業が益々必要ですね。ところで、農業肥料等の量が増えたのは、一九五〇年頃の「緑の革命」(注二)からですよ。最近それが土壌を荒らしてしまい問題になっては

いますが、でもそれがなければ地球上に飢えがもっと広がったのでは、という考え方もあります。それについてはいかがですか。

木村氏 確かに、木村の栽培をしたら餓死者が増える、と言われたことがあります。昔、お米は一〇アール当たり二、三俵



つに考えられ始めるなど、喫緊の課題であり、また、農薬の人体への影響等も考えると、私は自分の農業は間違っていないと思っています。

COP(注三)が、今年名古屋で開催されます。これには百九十一ヶ国が加盟しています。世界は百九十二ヶ国です。実はアメリカだけ参加していなかったのですが、今回初めて参加したことに、日本の取り組みが一番遅いのです。CO₂二五%削減と躍起になっていますが、今、真犯人である農薬等に誰も目を向けていません。私が以前COPで、肥料、農薬がガスを発生して環境に悪影響を与えていることを話したら、ある団体からかなりの苦情や批判がきましたからね。でも、今はそんな批判をしている場合ではないと思います。

私はよく農家の方々に、大儲けしなくてもいいからせめて自分の子供達が喜んで跡取りをすような農業を目指しなさい、と話しています。一万円の売り上げに七、八千円の経費をかけるのと、五千円の売り上げに最も大一割の経費をかけるのとを比べれば、どちらが現金が多く残

りますか、とも言います。なんだかんだ言ってもお金のことを言わないと、ピンときてくれません。全国の農家の人達にもそのような話をしました。米で生活できないのは、消費者が必要としない米を作っているからだよ、今、消費者が必要としているのは、肥料・農薬・除草剤を使わないお米だよ、と。

会 長 大量生産、大量消費の曲がり角かもしれないですね。そうなると思える影響を受けるメーカーも出てきそうですが…。

木村氏 そうなんです。例えば農機具。これからは農機具メーカーも農家サイドの機械を作る必要があると思います。ある会社に、私の栽培に合わせた機械をアタッチメント式で作ってほしい、そうすれば、現在の機械に取り付け可能ですし、農家の懐も痛まないだろうから、と依頼しました。

会 長 今や普通の工業製品はマーケットに合わせた商品開発をする、マーケットインが潮流ですが、農機具メーカーは未だに企業側の都合で作るプロダクトアウト型だということですか。

木村氏 そうです。先程の農機具メーカーからこんな話を聞きました。国内で売ろうと思えば、木村さん仕様の農機具を作った